



土岐市教育研究所	0572-54-1111 (内374)
TEL FAX	0572-55-6310
メールアドレス	kyoiku@city.toki.lg.jp
所報	No. 581
発行責任者	所長 西尾 実
発行日	令和7年 5月 19日
題字	長谷川 広和 教育長



撮影 下石小学校
長谷部 収英 教頭

『ぼくたち一年生で
安全に帰るよ』

「ポストコロナ令和時代の学校」

土岐市教育研究所長 西尾 実

令和7年度がスタートしました。ポストコロナの令和時代の学校は、ICT教育が急速に進み、タブレットは子どもの文房具の一つとしてあたりまえに授業で使われています。さらに学校の情報化は進み、ペーパーレスなど、業務のDX化も本格的になってきています。一方では、家族や地域のつながりの機能が弱まり、人々の交流に対する意識も希薄になりました。この時代を生きる子どもたちにも、社会の変化は大きく影響しています。子ども同士の関係も先生との関係も少し距離を感じる場合があります。そんな中、学校訪問で、机をぴったりとくっつけて頭と頭が近い距離で子ども同士がかかわりあう授業風景を見るとホッとします。人とのつながりについては、社会の変化に抗っていく学校でありたいと強く思います。

様々なことが効率化・管理化されていく令和時代です。効率化されて生み出された時間は、子どもと向き合える時間にと、切に願っています。昨年12月、次期学習指導要領改訂の目玉ともされるのが、カリキュラム編成の柔軟化だと報道されました。学校や教育委員会の裁量で、小学校の1コマを現状の45分から40分に、中学校では50分から45分にそれぞれ短縮し、年間の総授業時数1015時間(高学年の例)×削減5分で生み出された約130コマの「余白時間」の使い方は、各学校の創意工夫に任されるというも

のです。〇〇教育と子どもに学ばせたい新しい教育が次々と現場に下ろされています。学校には一マスの余白もない現実を痛感します。さらに、安全安心のために、より管理化された学校は、放課後に子どもが自由にグラウンドで遊ぶことさえ許してやるのができず、安全第一に家庭に返すことが最優先されます。道草や寄り道という用語すら、なくなりつつあります。

余白があつてこそ、新たな挑戦する気持ちが生まれると思います。それは子どもも先生も同じです。窮屈な教育課程を組んで、子どもや先生が疲弊するようでは、意味がありません。創意工夫して、時に子どもと一緒にまったりする自由な時間を作ること大切だと思います。教育ジャーナリストのおおたとしまさ氏は、著書「子どもの体験 学びと格差」の中で、「子どもたちの放課後や休日に十分な時間・空間・仲間の三間があれば子ども同士で学びあうことができる。」と述べています。学校にいる時間は、最も安全な時間であり、近くに大人がいて安心して遊べる空間です。多くの子どもは、家に帰っても近所で一緒に遊べる仲間は近くにいない。学校は、いろいろな仲間がいるとてもワクワクする場所です。週に1度でも月に1度でもいい。思い切ってロング昼休みや放課後自由時間を作って、子どもも先生もまったりできる時間を作りたいと思います。



つなぐ 人・もの・ことを豊かに

土岐市教育委員会
長谷川広和

■市制施行70周年を迎えて

土岐市は、令和7年2月1日に市制施行70周年を迎えました。これまでの70年を担ってきた先人に感謝する機会、今後の土岐市を担う世代が活躍できる機会、これから先、土岐市がどのように進んでいくかを考える機会として、様々な記念事業を計画しています。そのキーワードは「つなぐ」です。

(1) ときをつなぐ (2) ひとをつなぐ
(3) まちをつなぐ (4) みりょくをつなぐ
貴重な節目となるこの機会に、ひとつづくりの視点から、学校における「つなぐ」について、考えてみたいと思います。

■学校は「つなぐ」場所

4月、下石小の入学式に参加させていただきました。新1年生の皆さんが、ちょっと緊張しながらも、幼稚園、こども園で学んだことを精一杯発揮して頑張る姿に、教育は日々の積み重ねで成り立ち、園での学びが小学校につながっていると感じました。また、子どもたちの頑張りを、家族の皆さん、先生方、地域の方々が温かなまなざしで見守っている、その空間が目の前に展開されていることに、学校は多くの人々の思いを「つなぐ」大切な場所なんだと改めて感じさせられました。

また、新1年生一人ひとりが、9カ年の義務教育の最初の一步を、胸を張って踏み出せるように、先生方が、それぞれの役割、立場から、子どもに寄り添い、支えていらっしゃる姿に、学校は願いを叶えるために、「人と人」「心と心」がつながり、価値を生み出していく場所であることも感じさせていただきました。

■「つなぐ」ことに意味を

教育という営みは、子どもと人、もの、ことを「つなぐ」ことから始まります。その「つなぐ」ことに、教師が、どんな意味や価値を生み出していくかがとても重要になります。

授業は【子ども】と【教材(もの・こと)】【教師】の三者で成り立ちます。子どもと教材を「つなぐ」ことで、子どものもつ世界をより豊かに、広げたいと思います。そのためには、子どものもつ世界をよく知ること。そして、目指す世界

を明らかにすること。手を引いて導くのか、無理やり押し込めるのか、世界を覗いてみたいと思って、自分で踏み込ませるのか。どんな「教材」を「どうやって」子どもとつなぐのか。その先にある世界はどんな世界なのか。教師がよりよく「つなぐ」ことで、それぞれの教科がもつ楽しく、魅力的な世界を、子どもたちに味わわせてやっていただきたいと思います。その楽しさや魅力が、将来の「夢」につながると思います。

■未来社会の創り手を育む

そして、子どもと子ども、子どもと人を「つなぐ」ことを大切にしたいと思います。様々な場で、子どもと子ども、人がつながる経験をすることで、世界や社会は、いろいろな人から成り立っており、違うことは当たり前で、多様であることの豊かさを、子どもたちに実感させていただきたいと思います。今、世界は混とんとしています。ますますグローバル化が加速する今後の社会を考えると、自分と違う考えを排除するのではなく、互いが違いをも含めて尊重し合える、多様な人が活躍できる共生社会を、私たちは目指さなければいけないと思います。未来社会の創り手となる子どもたちには、違いをよさと捉えることのできる「ものさし」を、体験や授業を通して身に付け、「違っていると大変なこともあるけど、いろいろなことは楽しいし、面白いよ」と、違いを受け止め、理解し、それぞれの個性を尊重する力をつけてやりたいと思います。そんな寛容さや幅の広さ、懐の深さが、誰もが安心して生活できる居場所がある幸せ、人と人が「絆」で結ばれているという喜びを実感させることにつながるものだと思います。

学校が、人、もの、ことを豊かにつなげ、明るい未来に「つなぐ」場所になることを目指していきたいと思います。



1 今 求められていること

5年前の今頃は、臨時休校の真っ只中でした。臨時休校が明けると、学校での感染拡大や授業の遅れに不安を抱いたものでした。その解決策として9月入学について議論されたことが、ずいぶんと前のことのような気がします。その中で、学校が担っている役割や教職員としての日頃の取組の重要性も改めて実感しました。学校教育とは、単に授業によって知識を学ぶだけではなく、学校の中で様々な集団活動を行い、多様な仲間とふれあう中での様々な気づきが人を育てていくのだということにも改めて気づかされました。ICT環境が整備されても、教師との対面による指導は不可欠で、児童生徒同士のやりとりが、学びには必ず必要であることを、学校に戻ってきた児童生徒のマスク越しの笑顔が証明していました。誌上開催やリモートによる研修会や会議も多くありましたが、パソコンの画面と声や音、文字や写真だけではわからないこともありました。その場所に出かけ、人と会うことで気づくことがあるのは、児童生徒だけでなく私たち教職員も同じでした。よいアイデアは、他者との無駄話でもないと浮かんでこないこともあると思いました。

令和8年度岐阜県教員募集のパンフレットには、次のように掲載されています。

- 児童生徒を一人の人間として尊重し、あたかいまなざしで寄り添う教師
- 誰一人悲しい思いをさせない、愛情と使命感あふれる教師
- 指導方法を工夫し、児童生徒に確かな学力をつける教師
- 幅広い教養と高い専門性をもち、常に学び続ける教師

未来を生きる可能性に満ちあふれた児童生徒は、成長するために毎日学校に通ってきます。家庭環境などあらゆるものを背負いながら、毎日指導を受けるために通ってくるのです。私たちはそのことの重みを真摯に受け止め、



児童生徒を導いていかなければならないことを強く実感しています。

2 土岐市校長会として

土岐市校長会では、上記の運営テーマを掲げ、市内小中学校の教職員の皆さんと力を合わせて、ともに学び続ける姿勢を大切にしていきます。そして、校長会として、土岐市の教育課題を教育委員会と共有し、共に考えていきます。以下に校長会の取組を一部紹介します。

(1) 三部会(研修部会)…学校マネジメント

①学校経営部会

関係機関や企業等、様々な分野の方の講話等から、学校経営に生かす理念、視点、実践を学び、課題解決に向けた連携を図ります。

②課題検討部会

「児童生徒数減少に伴う土岐市の学校の在り方」「『土岐市教育支援センター』の効果的な活用」「いじめ問題対応等の危機管理体制」「不登校児童生徒の校内支援体制」等の喫緊の課題について、研修や意見交流をし、要望も踏まえ検討します。

③人材育成部会

教職員が、モチベーションを高くもち、経験や能力に応じてキャリアアップを図り、やりがいをもって貢献できるよう、OJTによる若手やミドルリーダー、管理職の育成について研修します。

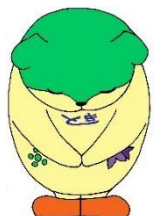
(2) 教育委員会、関係機関との連携

- ・教育委員会と校長会役員との定期懇談会
- ・土岐市の教育課題の解決に向けた中長期的な改革・改善についての意見交流
- ・子供の育成に係る各種団体の活動への協力

(3) 学校交流・小中別交流

- ・組織や教育課程、行事、その他の懸案事項や実践の交流
- ・生徒指導事案・教育相談事案に対する体制や対応の交流、未然防止体制の交流
- ・市内全校で統一する事柄の検討

13名の校長は、児童生徒、保護者、地域に信頼され、職員がやりがいのもてる学校をつくる、その責任を自覚し、ともに学び、高め合う校長会をめざします。



ふるさと土岐津に愛着と誇りをもてる生徒に

土岐津中学校長
小栗 祥吾

本校がある地域は、旧市街地として栄えてきました。現在は、プレミアムアウトレットやイオンモール、土岐が丘を中心とした新興住宅もでき、新旧交えた土地柄の中、教育を推進しています。

○地域夏祭りの再開を機に

昨年度の学校運営協議会で、コロナ禍で中止となっていた夏祭りを4年ぶりに再開して、地域を元気にしたいとの話があり、学校・生徒が地域と繋がり愛着がもてるチャンスと捉え、各地域団体のお力を借りて以下の取組をしました。



・家庭科1年生「浴衣の着付け」
(和装教育国民連合会・岐阜支部)



・体育科全校生徒「盆踊り振付」
(地域盆踊り継承活動団体・豊岐結会)



・ボランティア生徒「夏祭り屋台での企画参加」
(土岐津小学校グラウンド会場・祭り風景)

夏祭りの当日は、多くの生徒が浴衣着で参加し、踊りの輪に加わったり屋台経営ボランティアをしたりして夏祭りをおおいに盛り上げ、笑顔一杯の地域の方々や生徒たちを見ることができました。

○市教育委員会指定発表会を機に

昨年度、中学校区における市課題解決の研究発表をおこないました。小中9ヶ年を通した教育連携の発表でもあり、教職員同士や児童生徒の繋がりを大切にしました。そこで生徒会が、小学校6年生へ「体育祭、合唱祭へのお招き企画」をしました。これまで2月の1日体験入学参観はありましたが、勢いのあるダンス演技や、響きのある合唱を会場で目の当りにして、中学校のイメージをはじめ、先輩を憧れの存在、そして誇りとして受け止めてもらえました。



・体育祭(ダンス合戦披露)での小学校6年生参観



・合唱祭での参観者を意識した合唱前メッセージ

昨年度の地域の方々や小中の繋がりをもとに、今後も土岐市教育振興基本計画「夢・絆プラン」の基本理念に向けて、人との繋がり・絆の中で、ふるさとへの愛着と誇りをもって、夢を実現できる生徒の育成をさらに推進していきたいと考えています。

「誰一人余すことのない」土岐市の全ての子どもたちを大切にする教育の推進へ

土岐市教育支援センター「IKOT・いこっと」

令和7年度「つながる・寄り添う・支え合う」

理念：土岐市教育支援センター「IKOT・いこっと」は、

悩みや困り感を抱える子どもたちや保護者の課題を整理し、課題の解決を関係諸機関との連携により支援し、子どもたちの社会的自立をめざす機関です。



【IKOT の4つの機能】

教育(発達)相談・検査機能 家庭児童相談機能	児童生徒や保護者の様々な相談をワンストップで受けとめます。課題を整理し、関係機関と連携を図りながら支援を行っていきます。
不登校支援機能	学校へ行きづらさを抱えている児童生徒やその保護者に対して、一人一人の実態に応じたきめ細かな支援を行っていきます。
外国人児童生徒支援機能	外国人児童生徒やその保護者を対象に、日本語指導や教育相談等を通して、安心して生活できるように支援を行っていきます。
教職員資質向上・相談機能	教職員に対して、教育相談、不登校支援、外国人児童生徒支援にかかる研修会などを行います。先生方への相談活動も行います。

一人一人の子どもやその保護者に、切れ目のない支援体制を築いていくために学校、先生方、関係機関との連携は不可欠です。どうぞよろしくお願いします。先生方が日頃の教育活動の中で、悩んでいることなども是非ご相談ください。 IKOT 相談窓口 0572-55-8555 (平日9:00～17:00)



【令和7年度 IKOTの職員】 よろしくお願ひします。

所長(西尾次長が兼務) 副所長(保母) 事務(志水)
SSW(永治) 不登校支援コーディネーター(河地) 外国人児童生徒コーディネーター(林)
教育相談アドバイザー(渡邊・安藤) 不登校支援員(水野杏) 日本語指導員(加藤 水野明)
カウンセラー(戸田 櫛田) 指導員(知原 村上 上野)

令和7年度 土岐市小中学校教育研究会 各部のテーマ

部 会		部会のテーマ
小 学 校 教 科 研	国語	生きてはたらく言語能力を高める国語科学習 ～楽しくて、力がつく言語活動の工夫～
	社会	よりよい社会の実現をめざす子が育つ社会科学習 ～子どもが社会とつながる授業を通して～
	算数	見方・考え方を働かせ、数学的に考える児童を育てる指導の在り方
	理科	自ら問題を科学的に解決することができる子の育成を目指した理科学習
	音楽	楽しさと確かさの中に、美しさを求める音楽科教育
	図工	「つなげる」造形美術教育 ひと・くらし・ちから～子どもたちも先生もつくって楽しい授業を目指して～
	家庭	自ら学び実践し生活をよりよくしようと工夫する子の育成
	体育	仲間と共に運動の楽しさや喜びを味わう体育学習の創造
	外国語	外国語を通してコミュニケーション能力の素地・基礎を養う指導の在り方
中 学 校 教 科 研	国語	生きてはたらく言語能力の育成
	社会	主体的に社会の形成に参画する力を育てる社会科学習
	数学	「できた」「わかった」を実感させる数学教育の創造
	理科	科学的な探究を楽しむ生徒の育成～生徒の目線に立ち、一人一人の探究をつなぐことを通して～
	音楽	楽しさを確かさのなかに美しさを求める子をめざして～子どもの可能性を引き出す音楽科の授業～
	美術	「つなげる」造形美術教育 ひと・くらし・ちから～子どもたちも先生もつくって楽しい授業を目指して～
	保健	生涯にわたって運動に親しみ、明るく豊かな生活を営む資質や能力を育てる体育授業～主体的・対話的で深い学びを通して～
	技家	未来を切り拓く確かな実践力の育成 ～見方・考え方を働かせた、課題解決を図る指導を通して～
	英語	「できた」「わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける生徒を育てる指導を求めて
特 別 支 援	小	豊かな生活を目指し、生きる力を共に高める子どもたち～一貫性・柔軟性のある、支援体制・支援方法の一層の充実に焦点を当てて～
	中	豊かな生活を目指し、生きる力を共に高める子どもたち～一貫性・柔軟性のある、支援体制・支援方法の一層の充実に焦点を当てて～
	通級	一人一人の特性をふまえた通級での指導のあり方
各 種 研	養教	自分や相手のからだと心、命を大切にできる子の育成 ～命の教育を通じて～
	事務	子どもたちの豊かな育ちを実現する学校事務～研修を通じた知識・経験の共有による、主体的な公務運営参画への推進～
	栄養	児童生徒が生涯にわたり健康な生活を送るための「食に関する指導」の推進を目指して～実践力を高めるためのつながる食育～

令和7年度 教育研究所の事業紹介

今年度も教育研究所では、教職員と子どもたちが様々な力を高めることができるように、下記のような事業によって、園や学校の教職員と子どもたちを支援します。

1 訪問・派遣事業

土岐市研究推進指定園・学校事業
「市教育の方針と重点」及び園・学校の教育目標の具現を目指した計画的な研究推進を補助すると共に、その研究成果を土岐市内外に広めます。 【園教育研究】 該当園なし 【学校課題解決】 下石小学校・妻木小学校・西陵中学校〈初年指定〉濃南小・中学校〈中間報告〉 泉小学校・泉西小学校・泉中学校〈発表〉 【授業改善〔東教推指定〕】 泉中学校〈発表〉
幼稚園・こども園・学校訪問
園・学校の教育目標及び「市教育の方針と重点」の具現状況と、教育課程の編成及び実施状況を把握し、今後の園・学校教育の充実に向けた改善策、方向性を確認します。
教職員資質向上サポート事業
経験年数6年目までの教職員が自信をもって職務に向かいながら、授業の指導力を高め、キャリアアップにつながるように支援します。

その他に、ALT派遣事業、「はつらつ人材バンク」派遣事業等があります。

2 研修事業

マイプラン研修
幼稚園・こども園の教職員を対象として、個人または園の研究主題に基づいた主体的な研修を行い、日常の保育実践に生かすことによって教職員の資質向上を図ります。
課題解決委員会
「市教育の方針と重点」に基づき、児童生徒の体力向上に関する課題解決を目指し、市内小中学校から選ばれた4名の先生を中心として、授業実践や研修会を実施します。実践の成果については、「教育とき」等を通じて市内に発信していきます。
教育実践論文・実践記録
園や学校の教職員が、論文や記録として日々の研究実践をまとめる過程を通して、指導力や論理力を高めます。
オンライン研修
今日的な教育課題や市内で共通理解を図るべき内容について、オンラインのメリットを生かした教職員の研修機会を確保します。

その他に、学力向上推進委員会、ICT教育企画委員会・ICT教育推進委員会、サマーセミナー各種主任研修会等があります。

3 児童生徒能力開花応援事業

各種講座
小・中学生を対象として、子どもたちの興味・関心や技能、表現力等を高めることができるように、7～8月に様々な講座を設けます。



「信じて、見守る」

土岐津小学校

教頭 内海 優里

私の初任校は、コンビニがひとつもない大変のどかな村にある小学校でした。担任をもつことも、授業をすることも初めてで、毎日が無我夢中でした。

当然、初めて経験することばかりなので計画通りに進まず、目の前のことをこなすのに精一杯で、気が付かないうちに子どもに対して指示する言葉が増え、自分の思う方向へ誘導する発問をしたり、ひたすら説明し続けたりすることもあったように思います。

そんな中、学校訪問で訪れた先生と懇談をする機会がありました。目の前の子どもと接することに精一杯だった私に、その先生がにっこり笑って、たった一言「子どもを信じて見守ってあげてね。」とおっしゃいました。

特別細かい点を指摘されたわけではなく、たった一言「信じて見守ってあげて。」だけでした。

今もどの場面で「信じて見守る」べきか試行錯誤の毎日です。

ただ、人は誰でも「よくなりたい」「できるようになりたい」という感情をもっているものだと思います。可能性も無限大です。そのやる気と可能性を伸ばすのは、教師が出すぎても引きすぎてもうまくいかず、ちょうどよいバランスが大切なのです。

小さな村でスタートした私の教員生活も、今年で28年目になります。今は、子どもだけでなく職員に対しても、やる気と一人一人の可能性を少しでも伸ばす手助けができるよう「信じて見守る」を心に留め、毎日元気に過ごしています。



掲 示 板

本年度もよろしくお願いします

【教育研究所】



研究所長	西尾 実（次長）	前列中央
主 任	早瀬 浩孝	前列中央右
指導主事	虎山 泰昌	前列中央左
〃	奥谷 治由	前列右
〃	安藤 亮	前列左
嘱託指導主事	林 奨司	後列中央左
〃	古川 直利	後列中央右
〃	小木曾寛美	後列右
事務職員	大野 昭彦	後列左

【ALT】

ウィリアム・スワン （右）
アリッサ・マルケイヒー （中央）
ジャクソン・オースティン （左）

